

第9期富山県生涯学習審議会委員名簿

氏名	役職
麻畑 秋市	日本ボーイスカウト富山県連盟事務局長
新井 郁男	上越教育大学名誉教授
磯野くに子	富山県生涯スポーツ協議会副会長
板倉 均	北日本新聞社副社長
伊藤 通子	NPO法人 ESD-J (持続可能な開発のための教育の10年推進会議) NPO法人 エコテクノロジー研究会理事
稲葉 実	富山県専修学校各種学校連合会副理事長
大橋 聡司	富山経済同友会幹事・教育問題委員会委員長
鹿熊 久三	富山県公民館連合会会長
経田 博子	フリーアナウンサー・富山県民生涯学習カレッジ自遊塾県民教授
小路みつ子	富山県婦人会副会長
竹内 章	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長
中屋 久孝	滑川市教育長
七澤 睦子	公募委員
堀 明弘	公募委員
村上 和子	富山県生涯学習団体協議会専務理事
森本富志雄	富山県労働者福祉事業協会理事長
結城 正斉	富山県民生涯学習カレッジ学長
吉川 佳子	富山県PTA連合会副会長
和田 朝子	富山県芸術文化協会副会長
渡邊 裕司	放送大学富山学習センター所長

(委員数:20名 任期:平成22年5月31日まで)

富山県生涯学習カレッジの事業の概要

本県では、県民一人一人が生涯を通じて楽しく学び、学習成果を生かして自己実現を図る、ふれあい豊かで活力ある社会の創造をめざしています。富山県生涯学習カレッジ（愛称：県民カレッジ）は、昭和 63（1988）年の開学以来、24 時間稼働の生涯学習情報システム「とやま学遊ネット」の運用、ハイビジョン学習室を備えた映像センターの開設、県民自らが企画し受講者とともに運営する「自遊塾」など多様な学習機会の提供、ボランティア指導者として必要な知識・技術の習得を支援する「はつらつ学びのリーダー育成事業」など、広域的で先導的な生涯学習事業を実施しています。

(1) 県民カレッジのあゆみ

年度	県民カレッジの歩み	備考
昭和 63	・富山県生涯学習カレッジ開学(10月) ・県民カレッジ友の会「雷鳥会」に名称変更(10月) ・富山県生涯学習団体協議会発足(11月) ・「連携講座」開始	・全国初のコミュニティカレッジ ・県民大学校友会の会「雷鳥会」より ・全国に先駆けて実施
平成 2	・とやま学遊ネット開通(10月)	・全国初の生涯学習情報提供システム
平成 5	・県民カレッジ映像センター開設、ハイビジョン学習室等完成(6月) ・学習サロンを新設	
平成 6	・第 6 回全国生涯学習フェスティバル(まなびピアとやま'94)開催(10月)	
平成 7	・県民カレッジ「自遊塾」開始	・先進的な講座を本格的に実施
平成 10	・インターネット市民塾の産官学の共同研究を開始 ・生涯学習メニューブック発行 ・県民カレッジ開学 10 周年記念式典(10月)	・全国初のインターネットを活用した在宅学習システム
平成 11	・映像センター課内に「富山県映像センター」設立	
平成 13	・新川地区、砺波地区センター事業の開始(4月)	・生涯学習校に地区センターを併設
平成 14	・富山インターネット市民塾推進協議会設立(5月)	
平成 15	・新「とやま学遊ネット」稼働(4月)	
平成 16	・高岡地区センター事業の開設(4月)	・県内 4 地区体制
平成 18	・「布橋大灌頂～立山信仰と女人救済儀式～」が第 4 回全国地域映像コンクールで「グランプリ」受賞	
平成 19	・「はつらつ学びのリーダー育成事業」開始	
平成 20	・県民カレッジ 20 周年記念フェスティバル開催	

(2) 県民カレッジの 5 つの機能

- ①学習情報を収集・提供し、学習相談に応じます。
- ②多彩な学習機会を提供します。
- ③映像で学習を支援します。
- ④学習交流や成果の発表を支援します。
- ⑤生涯学習についての調査・研究を行います。

(3) 富山県民生涯学習カレッジ本部及び地区センターの位置及び利用時間

名 称	位 置	利用時間
カレッジ本部 (昭和 63 年 10 月設置)	富山市舟橋北町 7-1 教育文化会館内	月、水～土 9時～19時 日、祝日 9時～17時
新川地区センター (平成 13 年 1 月設置)	魚津市木下新 144 (県立新川みどり野高校に併設)	月、水～土 9時～19時 日 9時～17時
高岡地区センター (平成 16 年 1 月設置)	高岡市末広町 1-7ウイング・ウイング 高岡内 (県立志貴野高校に併設)	月～土 9時～20時 日、祝日 9時～17時
砺波地区センター (平成 13 年 1 月設置)	小矢部市清水 95-1 (県立となみ野高校に併設)	月、水～土 9時～19時 日 9時～17時

県内 4 地区に分ける広域学習圏



高岡地区の生涯学習の拠点ウイング・ウイング高岡



(4) 県民カレッジ講座概要

県民カレッジ講座	主催講座	夏季講座 (本部)	各分野の著名な講師から学ぶ大型連続講座
		人間探究講座 (新川、高岡、砺波)	生き方や考え方、ふるさと等について学びを深める講座
		自遊塾 (本部、新川、高岡、砺波)	公募した県民教授がボランティア講師として運営する講座
		映像制作講座 (本部) 映像制作セミナー 著作権講座 ビデオ教材制作研修会	ビデオ撮影や編集の技術、著作権を学ぶ講座
		はつらつ学びのリーダー育成セミナー (本部、高岡)	県民の学習活動を支えるボランティア指導者を養成
		センター講座 (新川、高岡、砺波)	地域の特色を生かした地区センターオリジナルの講座
		特別講座 (新川、高岡、砺波、雄峰高校)	生涯学習校の授業の一部を高校生と共に学ぶ講座
		委託講座等	学習団体講座 (県生涯学習団体協議会) 教養講座 O9セミナー富山再発見講座 学校開放講座 (県立学校 4 校)
	連携講座	国、県、市町村、高等教育機関、公的機関、民間企業など各実施機関と協議のうえ開設 (本部、新川、高岡、砺波)	

① 県民カレッジ本部

1 企画費

2 県民カレッジ運営委託費（富山県文化振興財団）

○夏季講座の開催（平成20年度実績：受講者714名）県教育文化会館大ホール

開催日	講師	演題
7月18日（金）	金田一秀穂	心地よい日本語
7月19日（土）	和田 秀樹	頭と心を活かす勉強法

○県民カレッジ自遊塾の開催（平成20年度実績：56講座、913名）

（講座例）

ツボ・整体でいい呼吸いい顔 肩こり楽に！	腹話術人形で笑いの出前	医療の壁に
新しい生き方を探る読書会（池田晶子を読む）	家庭でできるツボ療法	琴に触れ 心にうるおいを
富山の魅力を探してスクラップブックング！	「日本百名山」机上登山	切り絵からカラー影絵シアターへ
燃費向上！！エコドライブ	子どもの安全を考えよう	音楽はコミュニケーション！
人生を楽しく明るくする心理学	旧立山街道を歩き、石仏と語ろう！	みんなで楽しく「群読」～ファイナル～
越中の山野草と温泉を楽しもう（上級者・中級者・入門者）	日本の名山を楽しむ	「命を見つめて生と死」スピリチュアルケア
古文書に親しみ、有名人の墨蹟を判読しよう！	マイ・ポエム綴る&詠む	越中おわらの歌詞のあれこれ

○はつらつ学びのリーダー育成講座（詳細は別紙）

○学校開放講座の開催（平成20年度実績：7講座、164名）

有磯（生活環境）	小矢部園芸高（園芸、造園）
魚津工業高（パソコン）	伏木高（ロシア語、中国語、韓国語）

○連携講座の推進（平成20年度実績：4地区：28機関143講座、5,694名）

富山健康科学専門学校	富山大学地域連携推進機構	富山国際大学	放送大学富山学習センター	富山県立大学
富山短期大学	富山工業高等専門学校	富山大学和漢医薬学総合研究所	高岡法科大学	富山県公文書館
富山県埋蔵文化財センター	(財)とやま国際センター	富山県南米協会	富山県花総合センター	富山県中央植物園
富山県国際日本海政策課	日本海学推進機構	富山県女性財団	富山県社会福祉協議会	富山地方法務局
南砺市園芸植物園	高岡市万葉歴史館	高岡市美術館	滑川市中央公民館	高岡市教育委員会 福岡教育行政センター
滑川市教育委員会	黒部市民病院	県民カレッジ友の会「雷鳥会」		

○県民カレッジ叢書の刊行（平成20年度実績：1冊発刊）

「頭と心を活かす勉強法」（和田秀樹）県民カレッジ叢書101号

※「精神開発叢書」（県民カレッジ叢書の前身）から約260冊発刊。

○生涯学習調査研究事業（平成20年度実績：調査研究誌1冊発行）

「はつらつ学びのリーダー育成事業についてVOL2」

○生涯学習フェスティバル（学遊祭）の開催（年1回）

講座受講者ほか県民、生涯学習団体が集い、学習成果を発表し交流を深める機会。

平成20年度は、県民カレッジ20周年記念フェスティバル（本部8月30日）を開催。

○広域学習サービス連携会議の開催

全県的な生涯学習サービスの効率的な提供を進めるため、高等教育機関、民間教育業者、市町村の連携を深める機会として4地区で開催。

市町村及び各機関の学習サービスの現状、学習成果の活用、地域への還元、異種機関との連携・交流などについて協議

開催地区	開催日	開催地区	開催日
富山	平成 21 年 1 月 23 日	新川	平成 20 年 12 月 4 日
高岡	平成 20 年 12 月 9 日	砺波	平成 20 年 11 月 25 日

○学習相談サービス業務の推進（平成 20 年度実績：8,412 件）

主な相談内容：講師の紹介、学習講座・学習メニューほか、

3 県民カレッジ人件費補助 ・派遣人件費補助（平成 21 年度 4 名）

②県民カレッジ地区センター

県民カレッジ運営委託（富山県文化振興財団）

○人間探究講座（平成 20 年度実績：8 講座、受講者 397 名）

- ・新川地区センター 「新・新川学 2008」、「ふるさとの文化に学ぶ」
- ・高岡地区センター 「匠の技と心」、「環境の世紀を生きる」入門編、同 II、「二上山の歴史と文化」
- ・砺波地区センター 「創ろう 豊かなくらしと健康」、「砺波学 ～となみ『野』の先人からの贈りもの～」

○センター講座（平成 20 年度実績：受講者 481 名）

地区	期日	受講者
新川	4 講座	221 名
高岡	4 講座	135 名
砺波	7 講座	125 名

○特別講座（平成 20 年度実績：99 講座、受講者 958 名）

地区	期日	受講者
新川	41 講座	489 名
高岡	28 講座	133 名
砺波	30 講座	336 名

○地区学遊祭・キャンパスフェスティバル

地区センター利用者と生涯学習校の生徒が日頃の学習成果を発表し、地域住民と広く交流する。

③生涯学習団体育成

富山県生涯学習団体協議会の活動への助成、生涯学習団体の育成

○学習団体講座の開催（平成 20 年度実績：6 講座、612 名）

富山県生涯学習団体協議会が、学習講座を企画・運営し開催

④富山県映像センター

(1) 富山県映像センター事業運営

① 映像で綴るふるさと富山収集事業 (情報提供・収集・制作保存等)

1 郷土学習教材の制作

- ・H20「高岡物語 -開町四百年の軌跡-」

平成21年に開町四百年を迎える高岡が育んできた、歴史や文化の魅力を紐解く。

(県内小・中・高・図書館等 約500箇所へ配布)

- ・H21「^{てんがい}天^{まも}涯を護る -立山カルデラ砂防-

常願寺川流域の氾濫を防ぐため、建設が続けられている砂防施設群を紹介しながら、立山の自然とともに生きる人々の姿を描いたハイビジョン動画ソフト。



〈最近の郷土学習教材〉

2 「旬の映像」の制作 (DVD制作及び県機関等で上映)

3 貴重映像の収集 (「思い出の富山」等、DVDに収録し県民へ貸出)

4 とやまデジタル映像ライブラリーの登録 (H21.3月末現在 登録コンテンツ総数 1,236点)

5 他機関との連携・協力の推進…CATVやNHK富山、その他民放等での映像利用

② 優秀映像鑑賞推進事業

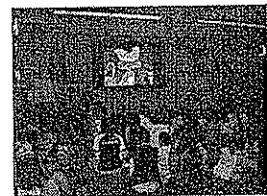
1 映像フェスティバルの開催

(学遊祭等の映像フェスティバル、とやま映像祭等)

2 教育映像作品選定・購入

3 ふるさとブースの利用支援 (H20視聴件数 4,523件)

4 ハイビジョン学習室利用支援



〈映像フェスティバル〉

③ 映像制作セミナー事業

1 映像制作講座の実施

(著作権講座や映像制作セミナー、ビデオ教材制作研修会等)

2 富山県視聴覚教育研修会の開催

3 映像制作等の学習相談 H20-相談件数:1,956件



〈講座の様子〉

④ 映像活用県民支援事業

1 とやま映像コンクールの開催 (ふるさと部門「自作視聴覚部門」の募集)

2 16ミリ映写機点検及び操作認定講習 (点検 H20-高岡地区 82台)

3 映像資料・映像機器の貸出及び利用相談

(H20 貸出ソフト視聴人数:69,648人 貸出機器利用人数:48,382人)



〈昨年度リーフレット〉

(2) 収蔵視聴覚教材の概要 (H21.3月末現在)

VHS (β含む):4,342本 DVD等:636本 16ミリフィルム映画:2,374本

ハイビジョンソフト:49本 その他 [総計:7,832本(作品)]

※ふるさとブースで視聴できる主な作品例

郷土学習教材	「高岡物語 -開町四百年の軌跡-」 「石黒信由」 「布橋大灌頂」 他
県内各地の映像	「おわら風の盆」 「雷鳥の四季」 「井波彫刻」 「むぎや祭」 他
県制作映像 他	「黒部峡谷」 「風土記北陸」 「いきいき富山の技」 「風と心と」 他

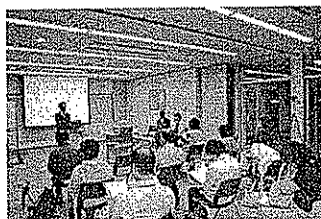
⑤ はつらつ学びのリーダー育成事業

【趣 旨】

団塊・シニア世代を中心に、県民の学習活動を支えるボランティア指導者を発掘するため、その知識や技能を習得する機会を提供するとともに、県内市町村や各種団体などとも連携・協力し、より多くの県民の生涯学習参画や社会貢献を支援する。



「はつらつ特別講演会」



「第1回育成セミナー」



「リーダー研修会」

【概 要】（Ⅱ期生を対象に平成20年度に実施した分）

1 「はつらつ特別講演会」の開催（参加者139名）

一般県民を対象として、生涯学習・地域活動への理解を深め、社会参画を促すために開催。

講演テーマ：「今こそ出番！団塊パワーが新しい社会を拓く」

講師：残間 里江子 氏（プロデューサー）

2 「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」の開催（参加者13名）

ボランティア指導者としての基本的な知識と技能習得を支援。

・基礎セミナー（4回）

「富山県の生涯学習」「生涯学習ボランティアの役割」などを学習。「コミュニケーション能力」「自己認識・他人理解」などの研修のほか、現場見学会を実施。

・コース別セミナー（3回）

自主講座講師、団体サークルリーダーの各コースに分かれて、具体的な講座の企画・立案・運営・展開などについての研修。

3 「はつらつリーダー研修会」の開催（参加数54名）

県内各地で活躍するボランティア指導者が集い、意見交換・情報交換を行うとともに、「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」受講者がミニ活動体験を行い、市町村生涯学習担当者や公民館・施設等の関係者との連携を深める。

(1) 基調講演「元気な地域創出のための生涯学習～ひとづくり まちづくり～」

講師：福留 強 氏 聖徳大学人文学部生涯教育文化学科教授

聖徳大学生涯学習研究所 所長

(2) ミニ活動体験：セミナー受講者11名による活動発表、合評会

(3) 明日に向かって宣言：セミナー受講の代表者3名による活動意欲の表明

※・Ⅰ期生の育成事業については、19年度から20年度にかけて実施し、修了認定を経て学遊ネットへのボランティア登録を行った。

・Ⅱ期生については、20年度、同メニューを展開、21年度は実践活動を継続し、を経て修了認定、ボランティア登録の予定。

⑥ 生涯学習情報ネットワーク事業

【趣旨】

「とやま学遊ネット」を運用し、インターネットによる生涯学習情報提供・学習支援事業を展開。

【概要】

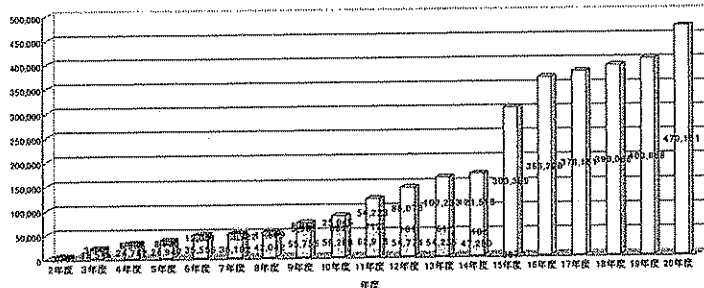
1 生涯学習情報提供サービス（一般向け）

学習講座、イベント、ビデオ・映画教材、施設、団体・サークル、デジタル映像資料、図書、講師・指導者、ボランティア人材情報

※ お知らせ、講座・イベント、施設情報は、携帯サイトにも対応

グラフ1:とやま学遊ネット 利用件数

□タッチパネル □パソコン通信 □インターネット



とやま学遊ネット登録データ件数 (H21.3.31)

種類	学習講座等	ビデオ・映画教材	講師・指導者	図書	その他	計
件数	7,700	112,000	7,300	1,560,000	5,700	1,692,700

2 学習活動支援サービス（利用登録者向け）

- ・個人学習分野に応じたイベント・学習講座情報のE-mail配信（お知らせ宅配便）
- ・県民カレッジが主催する講座の受講申込、講座申込応募状況確認・受講履歴確認。
- ・映像センター所蔵の視聴覚教材・機材の貸出予約申込、予約状況・貸出履歴確認。

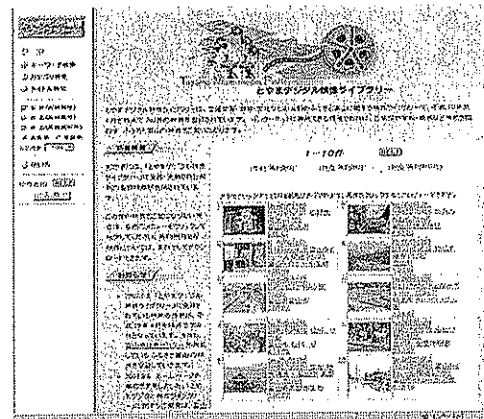
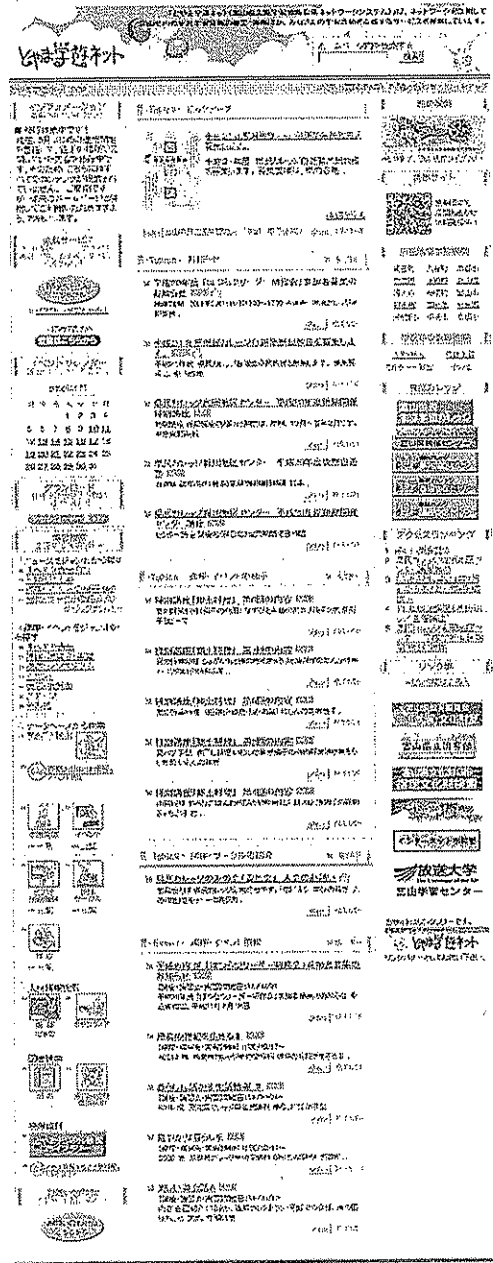
3 映像情報提供サービス

(1) とやまデジタル映像ライブラリー

県内の貴重映像、ビデオ・映画教材をデジタル化した映像ライブラリー。キーワード検索が可能で映像配信。

(2) とやま県民ふるさと資料館

県民カレッジテレビ放送講座で収集された、とやまの自然、文化、歴史等の資料などを文字や映像で提供。



親を学び伝える家庭教育推進事業

事業の趣旨

- ・子育てに不安や悩みをもつ親を支援するため、親の役割や家庭教育について学ぶ「親を学び伝える学習プログラム」の普及・活用を図る。
- ・経済団体等と連携して、企業に対し家庭教育の推進を啓発する。

とやま親学び支援事業

幼・保、小・中保護者への親学びの啓発

教育関係団体等との連携

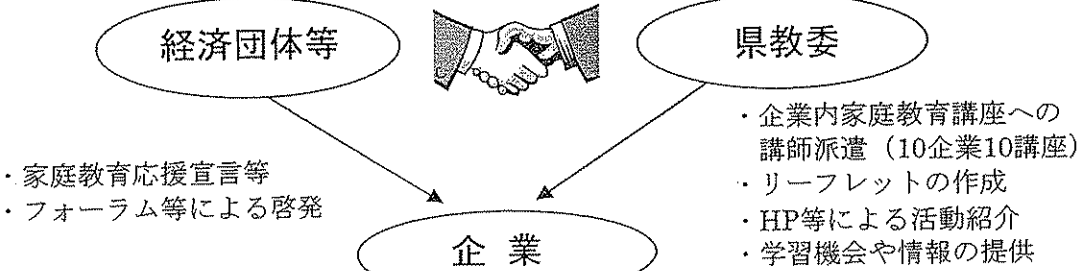
- 幼稚園・保育所の保護者対象啓発事業
幼稚園、保育所での保護者会等で、親学びプログラムの普及・啓発講座を実施
・講師：家庭教育アドバイザー等
幼・保関係3団体に委託
(県国公立幼稚園PTA連絡協議会、県私立幼稚園協会、県保育連絡協議会)
- 小学校・中学校の保護者対象指導者養成事業
県PTA連合会に委託
・指導者養成研修会を開催 9会場
・講師：親を学び伝える学習推進委員等



家庭教育推進企業連携事業

企業への家庭教育推進の啓発

企業・経済関係団体との連携



親等への働きかけ

- ・企業内家庭教育講座の開催
- ・安全安心な地域づくりに協力
- ・職場体験等への支援
- ・学校、地域との関わりや親子のふれあいの奨励



これから親となる若者、子育て中の親が親としての役割を果たし、家庭の教育力が向上

「家庭教育サポート宣言」について

去る、8月20日（木）に、富山経済同友会と県教育委員会が「家庭教育サポート宣言」を行いました。県教委として、企業内家庭教育講座への講師派遣等、企業の家庭教育の取り組みを積極的に支援し、互いに連携して家庭教育を推進します。

1 家庭教育サポート宣言とは

経済団体等と県教育委員会が連携して「家庭教育サポート宣言」をすることで、企業も含め地域ぐるみで家庭教育を支援していく気運を醸成するもの。

2 期日 平成21年8月20日（木）

3 宣言の内容（要旨） ※別紙1参照

- (1) 安心して子どもを生み育てることができるよう社内就業制度、慣行づくり
- (2) ノー残業デーなど、家族でふれあいがより持てる職場環境づくり
- (3) 家庭内でしつけや道徳心が培われるよう、従業員の家庭教育の意識啓発
- (4) 環境問題への意識を高め、子どもと一緒に汗を流して作業する慣習の拡大

4 県としての対応 ※別紙2参照

- (1) 企業内家庭教育講座への講師の派遣、家庭教育に関する情報の提供等、職場での家庭教育向上に向けた取り組みを支援
- (2) 県のホームページやリーフレットに企業内家庭教育講座等の実施企業名や内容を掲載し、家庭教育支援に取り組む企業の姿勢をアピール

われわれ富山経済同友会は、教育こそわが国の経済、社会の永続的な維持、発展にとって、もっとも重要な課題であると考え、平成10年度に教育問題委員会を発足させ、県内学校への出前授業をはじめ、多面的な提言、活動を続けてきました。

なかでも「家庭教育を見直す」を重点的なテーマのひとつとして、種々の提言を行い具体的な活動も実践してきました。核家族化や人口減少、価値観の多様化、グローバル化等が進展する中で、次世代を担う子どもたちが心身ともに逞しく育っていくためには、家庭教育がきわめて重要であり、当会としても経済人の立場から積極的に取り組んでいくべきと考えたからであります。

われわれ同友会会員は、従業員やその家族の「オヤジ」役として、職場から、あるいは経済人として家庭教育をサポートしていくことをここにあらためて宣言します。

- 1 安心して子どもを生み育てることができるよう、育児休業について法令を遵守し、短時間勤務制度やフレックスタイム制度の拡充、子どもの看護のための休暇制度など、男女問わず活用できる社内の就業制度、慣行づくりに努めます。
- 2 従業員の子どもの誕生日や「とやま家族ふれあいウィーク」の何日かをノー残業デーにするなど、家族でふれあいがより持てる職場環境づくりを進めます。また、子どもの誕生を記念して、例えば絵本を贈るなどの活動を拡げます。
- 3 家庭内でしつけや道徳心が培われるよう、企業内で従業員を対象とした家庭教育フォーラム等を行うとともに、家庭内でのあいさつ、お礼、しつけをはじめ生活のきまりを励行していく「わが家のきまり」づくりを呼びかけ、子どもの健全な育成のみならず、従業員の家庭教育の意識啓発に努めます。
- 4 当会は、会員とその子どもたちによるドングリ集めなどを行っておりますが、今後は子どもと共に家庭菜園などを行い、環境問題への意識を高め、あわせて子どもと一緒に汗を流して作業する慣習を拡げるよう努めます。

平成21年8月20日

富山経済同友会 教育問題委員会
委員長 大橋 聡 司

企業等における家庭教育支援の推進のために

家庭教育はすべての教育の原点であり、子どもたちが「生きる力」をはぐくみ、自立していくために家庭の果たす役割は大きいものがあります。しかし、近年、家庭の教育力の低下が懸念されていることから、行政はもとより、社会全体で家庭教育の充実・向上を支援していくことが求められています。

このような中、貴団体が率先して家庭教育サポート宣言を行われたことは、企業も含めて地域ぐるみで家庭教育を支援する気運の醸成に果たす意義は大きく、心から敬意を表します。

県教育委員会としましても、貴団体と積極的に協力し、以下により、企業等における家庭教育支援の推進に努めます。

- 1 企業内家庭教育講座等への講師の派遣や、家庭教育に関する情報の提供に努め、職場での家庭教育向上に向けた取り組みを支援します。
- 2 県のホームページやリーフレットに企業内家庭教育講座等の実施企業名や内容を掲載し、家庭教育支援に取り組む企業の姿勢をアピールします。

平成 21 年 8 月 20 日

富山県教育委員会
教育長 東野宗朗

平成 21 年度放課後子ども教室推進事業

生涯学習：文化財室

1 事業の趣旨

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を推進する。

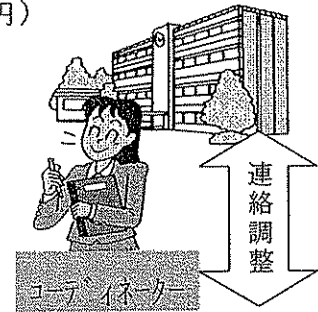
2 事業費

45,000千円（平成20年度：47,000千円）

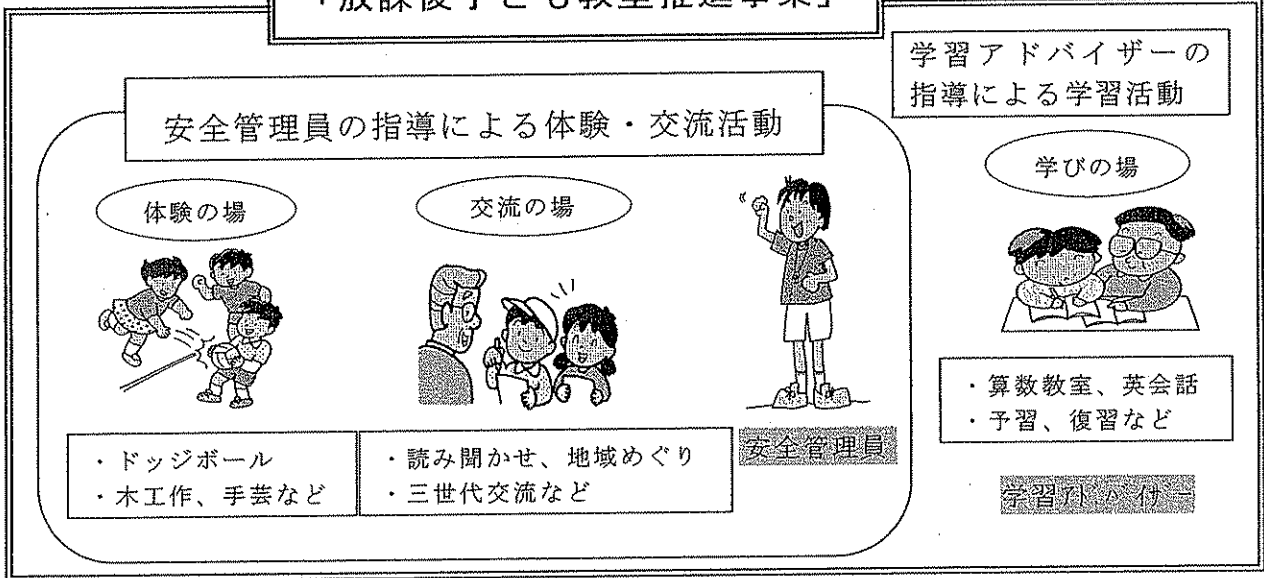
3 事業の内容

(1) 市町村事業(放課後子ども教室推進事業補助金：43,200千円)

- ①対象 希望するすべての子ども
- ②時間 平日の放課後、休日、夏・冬休み等
- ③場所 学校の余裕教室、公民館、児童館等
- ④その他 コーディネーターの配置
安全管理員、学習アドバイザーによる指導



「放課後子ども教室推進事業」



(2) 県事業(教育委員会と厚生部が連携：1,800千円)

- ・推進委員会の設置(行政、学校、福祉や社会教育の関係者、有識者等で構成)
- ・指導者研修会の開催(コーディネーターや安全管理員、放課後児童指導員等を対象)

4 事業の実施予定数(県内200小学校区中)

実施予定教室 200教室(内富山市44、その他156教室)

実施予定校区 166校区(内富山市44、その他122校区)

※ 平成20年度202小学校区中：

教室数 198教室(富山市43、その他155)

実施校区数 163校区(富山市43、その他120)

放課後子どもプラン 総合的な放課後対策(実施主体:市町村)

学びの場

生活の場

地域住民等との交流の場

専任指導員との活動の場

放課後子ども教室推進事業

平成16～18年度実施 国10/10委託事業
子どもかがやき教室推進事業
スポーツや文化活動等の様々な活動

16年度: 93教室
17年度: 123教室
18年度: 153教室

45,000千円(県)

放課後子ども教室(H19～)

富山市を除く市町村: 国・県・市町村1/3負担
(富山市: 国1/3、富山市2/3負担)

19年度 141教室(富山市44): 計185教室
20年度 155教室(富山市43): 計198教室
21年度 156教室(富山市44): 計200教室 予定

放課後児童健全育成事業

富山市を除く市町村: 国・県・市町村1/3負担
(富山市: 国1/3、富山市2/3負担)

概ね10歳未満の留守家庭児童への遊びや生活の場の提供

16年度: 156箇所
17年度: 159箇所
18年度: 163箇所

190,589千円(県)

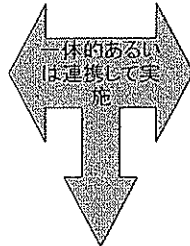
放課後児童クラブ

19年度 104箇所(富山市68): 計172箇所
20年度 108箇所(富山市68): 計176箇所
21年度 115箇所(富山市70): 計185箇所 予定

市「運営委員会」の設置、
「コーディネーター」の配置、
活動場所における連携促進

- ・勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等
- ・希望するすべての子ども
- ・年間平均40日程度(週1～2回): 基準なし
- ・1教室当たりの児童数約40名: 基準なし
- ・1回平均2～3時間: 基準なし
- ・学校の余裕教室、公民館等

- ・適切な遊びや生活の場
- ・保護者が留守家庭の概ね10歳未満の児童
- ・年間250日以上(授業日、長期休業日等)
(平成21年度までは200日以上でも国の補助対象)
- ・1クラブ当たりの児童数70名以下
(平成21年度までは71名以上でも国の補助対象)
- ・一日平均3時間以上
- ・学校の余裕教室、児童館等



「学び・体験活動・交流活動等の場」
「すべての子ども」
「家庭や地域と連携可能な活動」

実施内容
対象範囲
開催日数

「遊びや生活の場」
「留守家庭の概ね10歳未満の児童」
「専任指導員との放課後の活動」

県事業

推進委員会の設置

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者等で構成

合同

指導者研修会の開催

コーディネーターや安全管理員、放課後児童指導員等を対象

- A 平日に放課後児童クラブを実施し、週末に放課後子ども教室を実施する。(分担型)
- B 放課後子ども教室終了後、放課後児童クラブに所属する者は、放課後児童クラブに参加する。(連結型)
- C 放課後児童クラブの参加者が、その日の放課後子ども教室の内容によって参加を選択する。(選択型)
- D あらかじめ申し込んであるそれぞれの事業に参加する。(分割型)

学びの場

体験の場

交流の場

遊びの場

生活の場



放課後子ども教室

放課後児童クラブ

中央教育審議会 (平成20年2月19日)

新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について ～知の循環型社会の構築を目指して～(答申の概要)

平成17年6月の諮問「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」を受けて審議を開始。平成18年12月の教育基本法改正による「生涯学習の理念」(第3条)、「家庭教育」(第10条)、「社会教育」(第12条)、「学校、家庭、地域住民等の相互の連携協力」(第13条)等の規定の充実に踏まえた提言となっている。

<第1部> 今後の生涯学習の振興方策について

1. 生涯学習の振興への要請－高まる必要性と重要性

○総合的な「知」が求められる時代－社会の変化による要請

社会の変化に対応していくためには、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力及び他者との関係を築く力に加え、豊かな人間性等を含む総合的な「知」が必要となる。また、その他、自立した個人やコミュニティ(地域社会)の形成への要請、持続可能な社会の構築への要請等を踏まえ、生涯学習振興の必要性が高まっている。

2. 社会の変化や要請に対応するために必要な力

○次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」

子どもたちに必要とされる「生きる力」は学校教育のみならず、実社会における多様な体験等と相まって伸長していくもの。子どもたちが学校の内外で、その発達段階に応じて「生きる力」を育むことができるような環境づくりが求められている。

○成人に必要な変化の激しい時代を生き抜くために必要な力

成人についても、変化の激しい社会を、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることができるよう、生涯にわたって学習を継続でき、その成果を適切に生かせる環境づくりが求められている。

3. 目指すべき施策の方向性

○国民一人一人の生涯を通じた学習の支援－国民の「学ぶ意欲」を支える ～「個人の要望」を踏まえるとともに「社会の要請」を重視～

- ・今後必要とされる力を身に付けるための学習機会の在り方についての検討
子どもたちの学校教育外の学習の在り方について、「生きる力」を身に付ける上で、より効果的・効率的な社会教育のプログラムの在り方等について検討。成人についても、社会の変化に対応できる総合的な力について検討。
- ・多様な学習機会の提供及び再チャレンジが可能な環境の整備
「学び直し」や新たな学びへの挑戦、学習成果を生かすことが可能な環境を整備。
- ・学習成果の評価の社会的通用性の向上
民間事業者が提供する学習機会について、その学習内容や学習成果等の質の保証や評価を行う方策や、行政と民間事業者との連携方策等について検討。

○社会全体の教育力の向上－学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

- ・社会全体の教育力向上の必要性
子どもの「生きる力」や、変化の激しい社会を生き抜くための成人の力を育成するための環境づくりに社会全体で取り組むことが必要。
- ・地域社会全体での目標の共有化
どのような仕組みをつくってその教育力を向上させていくのか等について、地域社会の各関係者が、当該地域社会におけるニーズを踏まえ目標を共有化することが必要。
- ・連携・ネットワークと行政機能に着目した新たな行政の展開
ネットワークを構築することにより、必要としている者に行き届くきめ細かい対応をすること及び必要とされる場所に「出向いていく」行政を推進することが必要。

4. 具体的方策

○国民一人一人の生涯を通じた学習の支援—国民の「学ぶ意欲」を支える

- ①今後必要とされる力を身に付けるための学習機会の在り方についての検討
 - ・子どもの学校教育外の学習や活動プログラム等の在り方の検討
- ②多様な学習機会の提供、再チャレンジが可能な環境の整備
 - ・社会教育施設等を活用した多様な学習の場の充実
 - ・相談体制の充実
 - ・情報通信技術の活用
 - ・再チャレンジ支援
 - ・学習成果を生かす機会の充実
- ③学習成果の評価の社会的通用性の向上
 - ・履修証明制度等の活用
 - ・多様な教育サービスの在り方やそのための質保証の在り方の検討

○社会全体の教育力の向上—学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

- ・身近な地域における家庭教育支援基盤の形成等
- ・家庭教育を支援する人材の養成
- ・学校を地域の拠点として社会全体で支援する取組の推進（学校支援地域本部、放課後子どもプラン）
- ・学校・家庭・地域を結ぶPTA活動の充実
- ・地域の教育力向上のための社会教育施設の活用
- ・大学等の高等教育機関と地域の連携

5. 施策を推進する際の留意点

○「個人の要望」と「社会の要請」のバランスの視点

○「継承」と「創造」等を通じた持続可能な社会の発展を目指す視点

○連携・ネットワークを構築して施策を推進する視点

<第2部> 施策を推進するに当たっての行政の在り方

1. 基本的な考え方

○これまでの生涯学習の振興方策等について—基本的な検討課題

- ・生涯学習、社会教育、学校教育の関係等について概念の整理が必要
- ・社会教育行政の大きな役割等に応じていくためには、社会教育を専門とする人材や施設等の在り方について検討が必要
- ・「社会の要請」について検討が必要
- ・学習成果の評価の方策について検討が必要
- ・改正教育基本法を踏まえた生涯学習振興行政・社会教育行政の見直しについて検討が必要

○生涯学習の理念等についての基本的考え方

- ・社会教育行政や学校教育行政、首長部局において実施される生涯学習に資する施策等を総合的に調和・統合させるための行政が、生涯学習の理念を実現させるための生涯学習振興行政の固有の領域であること
- ・生涯学習振興行政において社会教育行政は中核的な役割を担うこと 等

2. 今後の行政の在り方—生涯学習振興行政・社会教育行政の再構築

○国、都道府県及び市町村の任務の在り方等

教育基本法の改正を踏まえ、教育委員会の新たな役割の明確化（学校支援活動や家庭教育支援等）

○社会教育を推進する地域の拠点施設の在り方

公民館・図書館・博物館の運営状況に関する評価及び改善、情報提供に関する規定の整備等に関する機能の活性化

○生涯学習・社会教育の推進を支える人材の在り方

司書及び学芸員等の資格要件の見直しと研修に関する規定の整備等による社会教育に係る専門職員の資質向上

○NPO、民間事業者等と行政の連携の在り方

地域の実態等に応じた積極的な連携、民間団体の情報収集や活動内容に関するデータベースの整備

○地方公共団体における体制について

教育委員会と首長との関係、社会教育関係団体に対する補助金交付に関する地域の実情に応じた手続きの弾力化

○国の教育行政の在り方

全国的な観点からの基本的な方針等の策定、横断的な「機能」に対応して柔軟に連携を支援する仕組みの検討等

答申の主なポイント

社会の変化に対応した
総合的な知の必要性

地域の社会構造の変化

教育基本法の改正

「生涯学習の理念」(第3条)、「家庭教育」(第10条)、
「社会教育」(第12条)、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」(第13条)

新しい時代に対応した自立した個人や地域社会の形成に向けた
生涯学習振興・社会教育の必要性・重要性

学習成果の活用

国民一人一人の生涯を通じた 学習への支援

個人の要望 + 社会の要請

- 変化に対応し、社会を生き抜く力
(「生きる力」等)の育成
ー学校外の活動プログラムの検討の充実
- 多様な学習機会、再チャレンジ可能な
環境の整備、相談体制の充実
ー生涯学習プラットフォームの形成
- 学習成果の評価の通用性向上
ー検定試験の質保証の仕組みの検討 等

「知の循環型社会」の構築

社会全体の教育力の向上

学校 + 家庭 + 地域

～地域の課題・目標の共有化～

- 身近な地域における家庭教育支援
ーきめ細かな学習機会・情報の提供、相談対応
- 学校を拠点に地域ぐるみで子どもの
教育を行う環境づくり
ー学校支援の仕組みづくり、放課後の居場所づくり
- 社会教育施設等のネットワーク化
ー公民館、図書館、博物館等の活用
- 大学等との連携 等

新たな学習の需要

新たな施策

<制度>

○社会教育関係三法の改正

- ・教育委員会の新たな役割の明確化(学校支援活動や家庭教育支援等)
- ・司書及び学芸員等の資格要件の見直しと研修の充実 等

<事業による仕組みづくり>

○地域ぐるみで子どもの教育を行う環境づくり

- ・放課後子どもプラン、学校支援地域本部事業の推進

○学習成果の評価の仕組みづくり

- ・民間事業者が行う検定試験等に関する評価の客観性や質を担保する新たな仕組みづくり 等

生涯学習校について

—「学びあいビジョン（富山県生涯学習新世紀構想）」から抜粋—

各論 第1章 生涯を通じた学習機会・学習の場の充実

(2) 学校教育の新しい展開

【施策の基本方向】

⑫社会の変化や生徒の多様なニーズに対応した学校づくりを進めるため、定時制単位制高校に富山県民生涯学習カレッジ（以下、県民カレッジ）地区センターを併設した生涯学習校の設置を推進します。

注 生涯学習校・・・定時制単位制高校に県民カレッジ地区センターを併設した、富山県独自のユニークな施設。平成13年4月に開校し、生徒から社会人まで、学ぶ意欲のあるすべての人に、いつでも門戸が開かれている。

(3) リカレント教育と学校開放の推進

【施策の基本方向】

⑥県内4ヶ所に開設される定時制単位制高校に県民カレッジ地区センターを併設した生涯学習校において、社会人と高校生と一緒に学ぶ相互に開かれた学びの場を提供します。

各論 第3章 学習支援ネットワークの充実

(3) 広域学習圏の整備充実

【施策の基本方向】

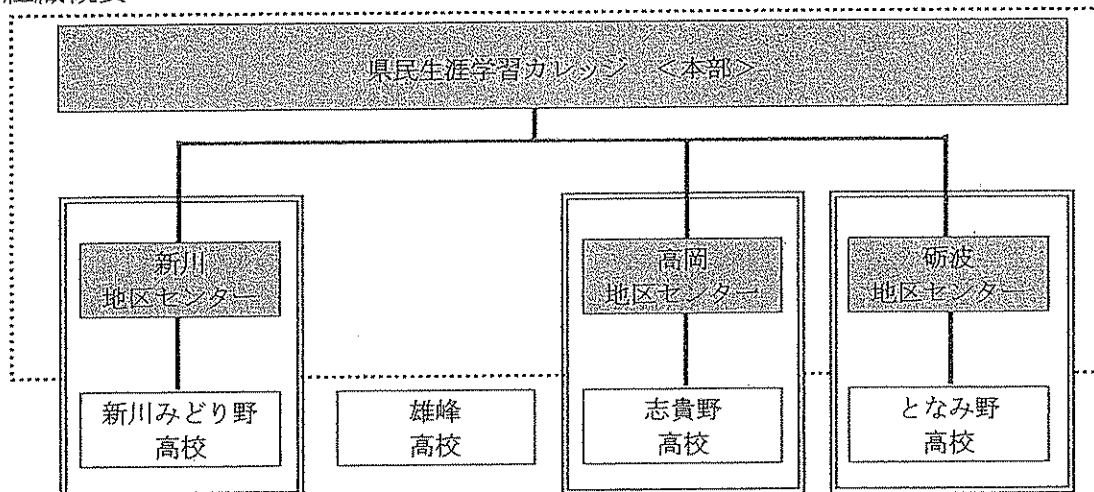
②広域学習圏内の学習支援ネットワークを構築していく拠点として定時制単位制高校に県民カレッジ地区センターを併設する生涯学習校を整備・充実します。

生涯学習校の設置状況等

(1) 生涯学習校

定時制単位制高校である新川みどり野高校、志貴野高校、となみ野高校の3校に県生涯学習カレッジ地区センターを併設し、高校生と社会人が共に学ぶ生涯学習校としている。

<組織概要>



(2) 社会人対象講座等（平成20年度実績）

		新川みどり野高校	雄峰高校	志貴野高校	となみ野高校
		併置	—	併置	併置
高校が社会人に公開する講座	YUHO講座	—	20講座 一般 186人 在校生 20人	—	—
	特別講座	41講座 一般 489人 在校生 246人	—	29講座 一般 133人 在校生 169人	30講座 一般 336人 在校生 172人
	開放講座	5講座 一般 20人 在校生 21人	—	—	—
	計	46講座 一般 509人 在校生 267人	20講座 一般 186人 在校生 20人	29講座 一般 133人 在校生 169人	30講座 一般 336人 在校生 172人
地区センターの主な講座	センター講座	4講座、221人	—	4講座、135人	7講座、125人
	人間探究講座	2講座、93人	—	4講座、198人	2講座、100人
	自遊塾	4講座、77人	—	2講座、29人	3講座、25人
	計	10講座、391人	—	10講座、362人	12講座、250人

※ 各講座について

- YUHO講座 : 雄峰高校の通信制特設科目の授業を社会人に公開し、高校生と共に学ぶ講座
- 特別講座 : 高校の授業を社会人に公開し、高校生と共に学ぶ講座
- 開放講座 : 高校の特別講師による授業の一部を、社会人にも公開する講座
- センター講座 : 地域の特色について学習する地区センター独自の講座
- 人間探究講座 : 生き方、考え方などについて専門家を招いて学びを深める講座
- 自遊塾 : 一般県民をボランティア講師とし、受講者と共に自主的に運営するユニークな視点に立った内容を学ぶ講座

地区別講座数及び受講者数の現状・担当職員について(H20 実績)

広域学習圏		富山地区	新川地区	高岡地区	砺波地区		
県民カレッジ		本部	新川	高岡	砺波		
人間探究講座	講座数	0	2	4	2		
	受講者	0	93	198	100		
センター講座	講座数	0	4	4	7		
	受講者	0	221	135	125		
特別講座	通年講座数	0	4	23	14		
	前期講座数	(10)	19	2	9		
	後期講座数	(10)	18	4	7		
	受講者 社会人・学生	雄峰高校で YUHO講座を開設 (186) (20)	233	246	133	169	336
教養講座	講座数	3	1	1	1		
	受講者	291	70	131	120		
自遊塾	講座数	56	4	2	3		
	受講者	913	77	29	25		
カレッジメイト	0	14	13	6			
キャンパスフェスティバル	なし	生涯学習校と共催	生涯学習校と共催	生涯学習校と共催			
広域学習サービス連絡会議	1回	1回	1回	1回			
生涯学習団体協議会 雷鳥会との連携	富山地区	魚津地区	高岡地区	砺波地区			
センターだより	0	年4号	年4号	年4号			
学習相談件数	3,240件	378件	702件	918件			
担当職員 (事務職員を除く)	学長：1 副学長：1 学習専門員：3 嘱託学習専門員：3 (映像センター 一課を除く)	所長：1 (生涯学習校校長兼務) 副所長：1 学習専門員：1 嘱託学習専門員：2	所長：1 (生涯学習校校長兼務) 副所長：1 学習専門員：1 嘱託学習専門員：4	所長：1 (生涯学習校校長兼務) 副所長：1 学習専門員：1 嘱託学習専門員：2			

本部機能

全体総括	学遊ネット	自遊塾総括	連携講座総括	学校開放講座
夏季講座	本部学遊祭	調査研究	はつらつ学びのリー ダー育成事業	県民カレッジ 叢書
講座案内作成				

平成21年度 富山市民大学

● 一般・・・31講座 会場：市民学習センター(富山市民プラザ内)

番号	コース名	学習内容	講師
1	とやまの薬を学ぶ	和漢薬の歴史・薬学・経済・展望について多面的に学ぶ。	米原 寛ほか
2	富山の植物をさぐる	山・野・海に生息する植物を探る。	吉田めぐみほか
3	くらしと水	「富山の水」の恵みと不思議を、多方面から探る。	尾畑納子ほか
4	地球の環境と富山	様々に変化する地球環境が、富山の空・海などに与える影響を考える。	中村省吾ほか
5	世界の歴史	西洋における宗教・文化などの時代的な世界観を学ぶ。	徳橋 暉
6	日本の歴史	狩猟採集や近世庶民暮らしなどの歴史を学ぶ。	深井基三ほか
7	食の考古学	食をテーマに縄文人の食文化から、中世、近世の食事をたどる。	安達志津ほか
8	郷土の歴史	郷土の先人が築いた足跡をたどり、歴史観を深める。	久保尚文ほか
9	万葉集(巻十)を読む	「万葉集」を読む力を育み、万葉人の暮らしと心にあふれる。	武部弥十武
10	平家物語の心を探る	平家物語巻十二を読み、戦乱の相次ぐ時代思潮-無常観-に耳を澄ます。	鷲本義昌
11	大奥の女性たち	大奥における日常の仕事や、そこに生きる女性たちの人間模様と愛憎の事件など。	陶 智子
12	奥の細道をとどろ	俳聖松尾芭蕉、みちのくの足跡から。	大西紀夫
13	文学へのいざない	名作短編小説の数々を通して、文学の世界へいざなう。	吉田 泉
14	文字の文化史	文字はどのような歴史を経て現代のようになったか。図版を使って興味深く語る。	押田雪峰
15	漢詩漢文の世界へ	漢詩、故事、史伝を通じ、老子・孟子等の思想にふれ、人生への思索を深める。	高倉知成
16	川柳を楽しむ	川柳づくりの基礎を学び、句会の楽しさを味わう。	八木孝子
17	現代短歌を楽しむ	現代短歌の様々な展開を紹介し、日本人の心の「うた」を味わう。	久泉迪雄
18	俳句入門	俳句の鑑賞と実作の基礎を学び、句会の楽しさを味わう。	藤岡隆昭
19	楽しい法律	家庭や社会生活、財産にかかわる身近な法律を学ぶ。	東 博幸
20	情報社会を生きる	情報社会のしくみを知り、これからの社会変化を予測し人生を豊かに生きる。	黒田 卓
21	美のある暮らし	くらしの中で精神性を高めるモノの美(道具・用具など)を見いだす。	水木省三
22	美術の世界	西洋・東洋など様々な美術を紹介し、芸術家や作品の魅力を探る。	伊東順二ほか
23	日本の名歌をたずねて	様々なジャンルの日本の名歌に親しみ、音楽の美しさを味わう。	中村義朗
24	音楽サロン	19～20世紀の欧米音楽(歌、楽器、管弦楽演奏)を解説し、鑑賞する。	松本明子
25	合唱	合唱を楽しみながら音楽の魅力にあふれる。	瀬戸和江ほか
26	郷土の料理A	富山に伝わる郷土料理を作って味わう。	佐藤春梅
27	郷土の料理B	〃	杉森裕子
28	郷土の料理C	〃	大崎節子
29	リズム体操	“体話”をしながらのストレッチや体に思いやりのある体操を学ぶ。	田中裕子
30	民謡	富山の民謡などの踊りを楽しむ。	家城和歌子
31	花とみどりの育て方	栽培の基礎と季節の植物の育て方を学ぶ。	堀井良吉

● 一般・・・8講座 会場：とやま市民交流館(富山駅南C i Cビル3階)

番号	コース名	学習内容	講師
32	東アジア世界の歴史・文化	東アジア史の視点から日本・朝鮮半島・中国の歴史的・文化的かかわりを探る。	鈴木信昭ほか
33	落語を味わう	古典文化「落語」に表現された豊かなものの見方や考え方にふれる。	二村文人
34	私が訪れた国々	諸外国を旅し、滞在した体験談から現地の生活と文化を知る。	朝比奈裕子ほか
35	楽しい脳トレニング	集中力の衰えを防ぎ、脳をフルに使って幸せな人生を送るための脳トレニング。	田淵英一
36	実年ライフ専科	実年世代の皆さんの生活に役立つ講義内容を知識を広める。	浦山隆一ほか
37	豊かな心	「生きる」ことへの深い想いから「いのち」について考え自分らしい生き方を求める。	永田円了
38	食と健康	人間の健康を支える「食」について、科学的・理論的な視点で説く。	藤田隆治ほか
39	私のファイナンシャルプラン	資産を運用するために適切な知識を得る。	永田重樹ほか

● 創作・・・6講座 会場：市民学習センター3階アトリエ(富山市民プラザ内)

番号	コース名	学習内容	講師
1	日本画	基本的なデッサンを学び、作品を制作する。	石田俊良
2	洋画	静物、人物、風景など基本テーマを学習し、自由課題の作品を制作する。	萩中幸雄
3	版画	彫刻刀の扱い、彫り、本摺りまで、作品制作を順に学ぶ。	金守世士夫
4	水墨画	多様な描き方を学習し、作品を制作する。	木村阿津湖
5	篆刻	字源、落款、石印材などの基本を学び、作品を制作する。	大村高陵
6	切り絵	切り方など初歩から順に学び、作品を制作する。	岩田長峯

● ガラス工芸・・・15講座 会場：市民学習センター分室(旧八人町小学校)
※ ガラス工芸の各種技法でガラス作品を制作し、自己感性の伸長と物を作る喜びを体験する。

● プラネット・・・19講座 会場：大沢野生産学習センター、綿中ふれあい館 等

番号	コース名	学習内容	講師
1	神通峡谷の歴史と文化	飛騨と越中の交流を歴史、文化、経済などから探る。	高梨清志ほか
2	隣国の言葉と文化に親しもう	韓国の言葉と文化を学び、日韓コミュニケーションを図る。	折田真一
3	民謡と祭りを語ろう	富山や日本の民謡の数々や祭りを知り、語る。	奥井悦子ほか
4	楽しい童謡をハーモニカで	ハーモニカの基礎知識を学び、楽しい童謡などを吹いてみる。	中保 理
5	日本画(大沢野)	基本的なデッサンや絵具の使い方を初歩から学び、作品を制作する。	大島麻美
6	切り絵(大沢野)	切り方など初歩から学び、切り絵の光と影を作品にする。	平野由美子
7	富山の郷土玩具「土人形」を作ろう	人形型に粘土で形を作り、陶芸窯で焼き、絵具で彩色し自分だけの土人形を作る。	古川圭子
8	大沢野ガラス工芸(サンドブラスト)	サンドブラスト技法でガラス表面に模様を彫りガラスの作品を制作する。	松本利香子
9	デジカメ写真を楽しもう(初心者)	デジカメの操作を学び、撮った作品の写真集を作る。	三木修二
10	四季の花づくり	園芸植物の育て方を楽しむ。(実習を主とする)	堀井良吉
11	韓流料理の魅力学ぶ	韓国の家庭料理を通じ、その魅力と食文化を学ぶ。	趙 玉敬
12	立山の生い立ちや有峰地域の自然を探る	立山の生い立ちや有峰の自然などを学ぶ。カルデラと有峰の現地学習がある。	米谷正広ほか
13	木工教室(パタフライデー作り)	木の温もりや性質を学び、テーブルを制作する。	柿谷 正
14	八尾探訪	八尾のまちを文化、信仰、経済などの面から捉える。	福江 充ほか
15	描いてみよう・洋画入門	静物・風景などの洋画を制作する。	佐藤日出信
16	綿中文化の散歩道	綿中の自然や歴史を現地学習を交えて学ぶ。	山下寿之ほか
17	手作り銀粘土アクセサリー(夜間)	銀粘土でアクセサリー(ペンダントトップと指輪)を制作する。	後藤千百合
18	手作り銀粘土アクセサリー(昼間)	〃	〃
19	写真を学ぶ	写真を講義と撮影会、作品講評によって学ぶ。	野崎昭雄

定時制・通信制教育の在り方検討会について

1 設置の趣旨

社会の急激な変化や、生徒の価値観・進路意識の多様化などの状況を踏まえ、中長期の視点に立って、これからの本県の定時制・通信制高校における教育の在り方等を検討する。

2 主な検討事項

- (1) 開設学科・コースの見直しに関する事
- (2) 多様な生徒に対応したより柔軟な学習システムの導入に関する事
- (3) 生涯学習機能の充実にに関する事
- (4) その他定時制・通信制教育の在り方等に関する事

3 スケジュール（案）

8月 3日 第1回検討会

9月10日 第2回検討会

第3回検討会

まず、雄峰高校の在り方等に係る中間報告を行い、その後、定時制・通信制全体の在り方について検討を進める。

定時制・通信制教育の在り方検討会(第1回:H21.8.3、第2回:H21.9.10) における生涯学習機能等についての主な意見

1 生涯学習機能の充実について

- ・ 生涯学習校では、年配者と高校生がともに学び、互いに励みになっている。高校生の不用意な言動に、大人が諭すようなこともあり、社会性を伸ばす機会ともなっている。
- ・ 生涯学習校においては、社会人と高校生との心のふれあいの機会がある特別講座などは大きなメリットとして捉えている。生涯学習機能は、今後の雄峰高校の在り方を考える上で大きな改善のポイントとなる。
- ・ 雄峰高校の改築を機に、富山地区の生涯学習センターを雄峰高校に併設することについて、今後、検討していただきたいと思う。
- ・ 生涯学習校については、これまで3地区に設置され成果が見られるところであり、雄峰高校にも整備し、中心校として他の3校と連携してさらに効果を高めることができると思う。
- ・ 不登校経験のある生徒は、同級生とはうまくいかななくても、異年齢の大人との会話は問題がない場合も多く、大人と共に学ぶことが自信を取り戻す機会になると思う。
- ・ 核家族化が進む中、子どもたちにとって、多くの大人と接する機会となる生涯学習校は、社会性を育む貴重な場であると思う。
- ・ 高校生と年配者では、学習に対する意識の差が授業態度等に現れる場合があり、学習形態や学習方法の工夫や、受講者への事前説明等を丁寧に行うことが大切だと思う。
- ・ 県民カレッジ本部の併設も検討し、カレッジと雄峰高校双方の機能アップの機会とし、また、他の生涯学習機関等との連携も図ることが望ましいと思われる。

2 雄峰高校の環境整備について

- ・ 雄峰高校の敷地、校舎は手狭で、耐震の問題もあると聞いており、生徒がいきいきと学ぶことができる、教育環境を整備することが必要だと思う。
- ・ 県立高校も、地域に支えられて教育活動を充実させることから、移転する場合においても、地域に開かれた学校づくりに努めることも大切な観点だと思っている。
- ・ 雄峰高校は、改築の機会に、ソフト、ハードの両面から、教育内容の充実に応じた教育環境の整備をぜひ進めていただきたい。移転する場合には、立地についても、生徒の利便性を優先して考えていただきたい。

◎ふるさと教育について

「ふるさと教育有識者懇談会」の設置について

1 設置の趣旨について

- 「明日のとやま教育創造懇話会」の提言報告では、子どもたちが、日本やふるさと富山の自然、歴史・文化に関する理解を深める、誇りと愛着を持つことを提案している。
- また、新学習指導要領では、国際社会に貢献し、未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、日本や郷土の伝統と文化に対する理解を深める教育を充実することとしている。
- さらに、郷土の誇りを伝承し、温かく、活発な地域コミュニティを形成していくためには、子どもだけでなく多くの県民が、郷土の歴史・文化に学び親しむことが大切である。
- こうしたことから、日本や富山県の豊かで美しく、厳しさもある自然・風土の中で構築された歴史・文化に関する理解を深める「ふるさと教育」を、学校だけでなく社会全体で推進していくことについて、幅広く議論するものである。

2 検討方針について

(1) 検討の基本テーマ

- ◇ ふるさと富山や日本の自然、歴史・文化に関する理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育むとともに、果敢にチャレンジする力を育てる「ふるさと教育」の推進について

(2) 検討項目

- ① 「ふるさと教育」の基本的な理念について
- ② 学校における富山ならではの郷土史・日本史学習の進め方について
- ③ 家庭・地域・企業等においてふるさとを学ぶ「生涯学習」の振興について

「第1回 ふるさと教育有識者懇談会」での主な意見

① ふるさと教育の意義、効果

- ・先般、学力偏重の中国のエリート教育の視察を通して、父母やふるさとの先人を敬い、ふるさとを心の拠り所として社会で活躍する人間力ある人材を育てる必要性を感じさせられた。
- ・浅野総一郎や椎名道三など、子どもたち自身の目標となる、こういう大人になりたいというロールモデルを提供することが大人の責任ではないか。
- ・子どもたちが、自分の住む地域の特色や先人の生き方などを知ることは、自分自身を認めることや、自分が社会に役立つ価値あるものだということにもつながる。
- ・地域のすばらしさを知っていれば、社会に積極的に出て行ける。自己をどう肯定していくかが、ふるさと教育の基本のひとつだと思う。
- ・自らが寄って立つ文化的環境をどう理解するかがスタートではないか。
- ・歴史や伝統文化の理解と愛着、先人たちの生き方を知ること、自らのアイデンティティを持って生きること、これらがどこへつながっていくのか、どうやって国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに結びつけていくのか考えていきたい。
- ・富山県が「ふるさと教育」に目を向けた施策を打ち出すことによって、地域社会の中で社会教育に携わっている人たちへの刺激も大きいと思う。

② 取り組みを進めるうえで留意すべき視点、検討すべき事項 等

(「ふるさと」とは)

- ・生活範囲から小学校区、市町村、県、日本と広がっていき、また戻って影響しあっていくものだと思う。
- ・両親のいる場、支えてくれた周りの人のいる場所である。
- ・先祖がずっと生きて自分につながっているという意識が、ふるさと意識につながっている。
- ・(ふるさとは)他の地域の人との交流の中で意識していくものである。
- ・「富山県」をふるさととして意識するのは、小・中・高では難しいと思う。大学で県外へ出て初めて意識するものである。
- ・富山にいながらにして郷土意識を持つのは難しいと思う。ふるさと教育として教えるには、「愛着」というのが重要な視点になる。
- ・ふるさとの良いところなどは、慣れてしまっていて意外と気づいていない。いざ紹介しようと思っても思い出せない。
- ・他の地域へ行けば行くほど、ふるさと富山を意識し、無意識のうちに比較している。

(留意すべき視点、検討すべき事項)

- ・最近新しい住宅地が増え、ふるさと意識が育つ環境が弱まる傾向にあると思う。
- ・情報化社会により、一気に日本、世界への憧れに向かっている。
- ・家庭がしっかりしていれば、ふるさと意識や誇りは持ちうる。
- ・小さい時からの家庭での働きかけが第一歩だと思う。
- ・親が加わった身近な体験などを考えることが必要である。
- ・親自身が（ふるさとのことを）知りたいと思う意識が薄い。親が関心を持つことが必要である。
- ・就学前や義務教育の中で、自分の住む地域に愛着や誇りを持つことによって、大人になって次の世代に指導していく形になる。
- ・小学校では、総合的な学習の中で、ふるさと自然に愛着を持ち、誇りを持つような教育を目指している。
- ・中学校での14歳の挑戦は、地域のことを知り、県民の勤勉さを知る機会となっている。中1の総合的な学習の時間では、地域をテーマに学習している。
- ・学校で学習したことは、実社会で繰り返すことによって真の力となる。そうした工夫が必要だと思う。
- ・歴史や地域というものは、必ずしも日本史の教科の中で扱うものではなく、教科の枠を越えて教えていくものだと思う。
- ・学校で指導する側も地域性を持つことが重要になってくる。
- ・「ふるさと」のいい点を強調するなかでも、全国的な位置づけについてもきちんと教えるよう、バランスに配慮してほしい。
- ・高校生では、広い視野と相対的な価値観、歴史的な意味づけなどを含めて教える必要がある。
- ・学校での成長に合わせた教え方、知識の提供の仕方、家庭での教育も大事だと思う。
- ・学校教育の側面と、どういう歴史・文化のあるところに住んでいるのか知らせる社会教育の側面が必要である。
- ・教材や取組みなど、点としてはいろいろあるが、知識が体験と結びついていない。みんなが体験の中で、それぞれのレベルで感じて発信し、県民運動として広まってほしいと思う。
- ・富山がどういう所なのか、手軽に適切に広報する必要があるのではないか。
- ・ふるさと教育とともに、グローバル教育も必要。外から見る機会を多くつくることによって、ふるさと教育を深めることになる。
- ・富山県以外の人たちに富山を広めることも考えてはどうか。他のアイデンティティと触れることによって自らのアイデンティティが認識され、強化されるものである。日本、アジア、世界など広い視野の中で議論を展開することも必要だと思う。

富山県における「ふるさと教育」の現状

1 県民のふるさとの歴史・文化への関心等の状況

- 近年、立山・黒部や高岡において世界文化遺産登録を目指す運動が熱心に進められるとともに、「劔岳 点の記」などの映画上映により、県民のふるさと富山の自然や歴史・文化に対する関心が高まっている。
- 富山の自然や歴史・文化について、自信をもって紹介できる県民は、全体の4分の1程度に過ぎず、特に若者が低くなっている。

県政世論調査(20年8月実施)において、県外の知人、友人等に自信をもって紹介することができる地域資源について、「たくさんある」と答えた人は、全体の27.4%であり、年代別に見れば40代・50代に比べ20代が約10%低くなっている。

- 地域の歴史や自然について関心のある小中学生の割合は、小学6年生では半数を超えているが、中学3年生では4分の1程度となっている。

地域の歴史や自然について関心のある児童生徒の割合〈20年度全国学力・学習状況調査〉

富山県 小学校 52.5%(10位、全国平均 48.2%) 中学校 25.6%(17位、全国平均 23.5%)

※「ふるさと教育」に他県に先駆けて取り組んでいる県の状況

秋田県 小 57.8%(1位) 中 31.9%(1位) ……平成5年～

島根県 小 49.4%(25位) 中 28.1%(4位) ……平成17年～

香川県 小 55.0%(4位) 中 26.7%(7位) ……平成16年～

2 学校における郷土史・日本史、その他のふるさとに関する学習状況

(1) 小中学校における郷土史・日本史、その他のふるさとに関する学習

- 県内の小学校では、3年生の社会科の授業において「身近な地域や市町村の様子」「地域の人々の生産や販売」「地域の生活の変化と先人の業績」、4年生では「自分たちの住んでいる県の様子」について学習している。また、6年生では日本の歴史について学習している。加えて、総合的な学習の時間にも郷土をテーマとした学習を96%の小学校が行っている。
- 県内の中学校では、1・2年の社会科で歴史的分野を学習しており、その内容の95%は日本の歴史で、世界の歴史の部分は少ない。身近な地域の歴史については、歴史的分野の導入部分で学習することになっている。また、中学校の83%では、総合的な学習の時間に郷土をテーマとした学習を行っている。

[小・中学校で活用されている郷土学習用教材・資料]

- 小学校では、県内全ての市町村で郷土学習用教材・資料を作成・活用している。また、ほとんどの小学校で、県小学校教育研究会が編集し、富山県教育会が発行した「きょう土のすがた」「のびゆく富山県」を補助資料として使用している。
- 中学校では、9市町でそれぞれ郷土学習用教材・資料を作成している。教科書出版会社による市販の補助教材・資料にも富山県の歴史が記載されているが、県内の中学生が共通して利用できる郷土学習用教材・資料は作成されていない。

(2) 高校における郷土史・日本史の学習

- 高校では、世界史は全ての高校生が学ぶこととなっているが、日本史は地理との選択となっており、県内の高校生の約半数は日本史を選択していない。
〔平成 20 年 3 月の県内高校卒業生では、日本史選択者が 46% (理系 23% 文系 70%) となっており、54% が日本史を選択していない。〕
- 県教育委員会では、高校生の負担が少なく無理のない形で、郷土や日本の歴史・文化を学ぶ方法について検討している。
- また、県内の高校では、郷土に関して専門的に学ぶ学校設定科目が総合学科や単位制高校の一部で開設されている。その他、学校行事や部活動などで学習機会が設定されている高校もある。

3 家庭・地域・企業等におけるふるさとに関する学習の概況

(1) 地域におけるふるさとに関する学習

- 富山市や高岡市の生涯学習センターや一部の地区公民館では、身近な自然やふるさとの歴史・文化などの講座が開講されており、地域に対する理解を深めるだけでなく、地域住民の交流や異世代間の交流促進に役立っている。
- 県民生涯学習カレッジ本部や同地区センター(3ヶ所)では、専門家から身近な自然やふるさとの歴史、文化などを学ぶ人間探究講座が人気講座となっているが、県民生涯学習カレッジと市町村や民間との役割・機能を見直す中で、講座数は減少している。また、県民が講師となって現地での体験研修等を行う自遊塾も好評を得ている。
- 立山博物館や高岡市万葉歴史館などでは、博物館の特色を活かしてふるさとの自然や歴史・文化に関する講座や講演などを定期的実施している。また、富山大学や富山国際大学などでも、大学が有する高い専門性を活かしながら、ふるさとに関する公開講座を実施している。これらの講座の多くは、県民生涯学習カレッジ連携講座として、広報や単位制度において県民生涯学習カレッジと連携を図っている。

(2) 郷土学習を行っている団体・サークル

- 地域における自主的な学習活動を支えているのが、生涯学習団体やサークルである。
- 県民生涯学習カレッジが運用する「とやま学遊ネット」には、県内の 2,500 を超える生涯学習団体・サークルが登録されている。その中で、歴史(郷土史、考古学、古文書)に関する学習を行っている団体・サークルは約 50 程度あり、公民館や図書館等を拠点として活動している。

(3) 家庭や企業におけるふるさとに関する学習

- これまでの家庭や職場におけるふるさとに関する学習活動は、主に各種図書資料やテレビ放送等を利用して行われている。
- 近年、インターネットやCATV等が普及する中で、家庭や職場において、それらを活用した、新たな学習活動の展開が期待される。

4 ふるさとに関する学習の拠点となる施設の概況

- 本県の公民館や博物館の人口当たりの施設数は他県に比べ多く、ふるさとに関する学習講座の実施や団体・サークルの活動場所として活用されている。

公民館：人口 10 万人あたりの公民館数 29.14 館(11 位：全国平均 13.42 館) (H17)
博物館：人口 100 万人あたりの博物館数 31.5 館(2 位：全国平均 9.4 館) (H17)

- 県の生涯学習の中核機関である県民生涯学習カレッジは、県内 4 地区全てに本部もしくは地区センターが設置されており、各種講座の実施のほか、学習情報の提供、団体・サークルの育成などを行っている。
- 富山県映像センターは、県民の映像を活用した学習活動を支援するため、ふるさとの映像の収集・保存、郷土学習教材の制作、制作実習講座等を行っている。
- 県では、「ふるさと文学」の拠点施設の整備を検討している。

5 ICTを活用したふるさとの学習に関する取組み

- ICTの活用は、学校や地域の学習拠点だけでなく、家庭や職場においてふるさとに関する学習を行う上で有効であり、インターネットの普及に伴い利用が増加している。
- 学習を始める上で参考となる情報（講座、講師、図書、団体・グループ等）がインターネットで検索できる「とやま学遊ネット」や、ふるさと富山に関する映像や写真等の学習資料をインターネットで自由に利用できる「とやまデジタル映像ライブラリー」「富山県デジタル文化財ミュージアム」「とやま県民ふるさと資料館」などが、県民生涯学習カレッジ等により運用されている。
- また、インターネットを利用して在宅学習ができる「インターネット市民塾」は、県内各地でのスクーリングと組み合わせてふるさとを学ぶ講座を開講している。
(「ICTを活用した地域ぐるみのふるさと教育と人の交流推進事業」を総務省に申請中。)

6 ふるさとの学習に関するその他の特色ある取組み

- 富山県では、今年度から、ふるさと文学を広く紹介し、その魅力を伝える「ふるさと文学県民講座」を富山大学と連携して実施するとともに、貴重な文学資料の散逸を防ぐため「ふるさと文学資料発掘ボランティア」などの新たな仕組みづくりに取り組んでいる。
- また、郷土の誇りとして後世に保存・継承すべき「とやま文化財百選」を選定して、地域住民等の歴史と文化に対する愛護意識の向上を図るとともに、県民への周知をとおして身近な文化財の普及啓発に取り組んでいる。
- 富山県や北日本新聞などが加わった実行委員会が平成 18 年度から実施している「越中富山ふるさとチャレンジ」は、富山版のふるさと検定で、上級、中級、一般、ジュニアの 4 部門について、富山を題材にした検定やスタンプラリーなどを通して富山の文化、伝統や産業などの魅力を再認識し創造することを目指している。
- 富山大学人間発達科学部の学生を対象とした必修専門科目として平成 18 年度から開設されている「とやま学」は、富山県の歴史・自然・産業・文化などに対する理解を深めることにより、富山県の教員を目指す学生の教材開発などの実践的指導力の向上を図っている。

検討課題（今後進めるべき取組みの例）

- 1 小・中学生が郷土の歴史や自然に対する理解を深め、関心を高める「ふるさと教育」
- 2 全ての高校生が学ぶ、富山ならではの郷土史・日本史学習
- 3 家庭、地域、職場などにおける魅力ある「ふるさと教育」
- 4 「ふるさとの教育」における ICT の活用